

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100279		
法人名	医療法人宮永内科クリニック		
事業所名	グループホーム自由ヶ丘		
所在地	宮崎県宮崎市吉村町井出ノ中甲793番地1		
自己評価作成日	平成 23 年 1 月 18 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=4590100279&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局		
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101		
訪問調査日	平成 23 年 2 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 笑顔の挨拶・言葉かけ
- 季節を感じていただける催しや工夫をする
- 安全面の配慮をし、安心して、ゆったりと過ごしていただくこと
- 毎日、笑いが絶えないこと

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明るく、生き生き、のびのびと暮らそう」を理念に掲げ、その人らしく、穏やかな生活を支援するため、毎月の職員会議・ケア会議を実施し支援している。家族との情報交換を密にするため、利用者ごとのノートを作成し職員・家族双方が活用できる仕組みを作っている。利用者の思いや要望を大切に、機会あるごとに利用者ごとの担当者や行事担当、調理担当が話し合い、利用者の思いに添った支援をしている。開所して3年目となり、地域との関係作り、ターミナルケアの体制作りなど更に充実できるよう、管理者、職員全員で協議し取り組みをはじめている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく、生き生き、のびのびと暮らそう」を理念の柱として、利用者様も、職員もそうであるように、職員一人一人が、どうすればよいか、日々考えながら実践している。	理念は、開所当時の内容であるが、常に理念を意識し、毎月のスタッフ会議でも理念に沿ったケアが実践できているか振り返る機会も作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入もしており、自治会の夏祭りへの参加や事業所の納涼祭の協力をいただく等行っている。また、近所のボランティアの方の定期訪問等していただいている。	民生委員や定期的な運営推進会議を通じて、地域のイベントや情報を取得し、利用者地域住民との交流の機会を作っている。近隣の方へのイベント広報に直接出向いたり、通りがかりの方にお茶会に誘い、事業所に目を向けてもらえるように働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭や餅つき、クリスマス会等の事業所の行事に参加していただき、その交流を通じて、少しは理解していただいていると思う。しかしまだ、支援の方法を活かすところまでは、至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、地区の民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、職員等で定期的に行っており、活発な意見交換ができつつある。納涼祭や餅つき等の行事への協力や意見をいただくなどしている。	運営推進会議を有効で更に今後活発な会議にするために、どのような内容にすべきか検討している。会議は、3か月毎に開催している。家族の意見も多く引き出すため、参加してもらおう働き掛けている。	昨年から徐々に運営推進会議が効果的な会議になりつつあり、更に良いものに近づけるよう努力している。今後2か月に1回の定期的な開催になるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等に、地域包括支援センターの方の出席もいただき、現状や取り組み状況など、理解していただくようにしている。	市担当者と運営上の課題等について、相談できる関係が築かれている。地区自治会加入の際にも、市担当者の中に入ってもらい調整してもらおうなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、日中はできるだけしない方向ではあるが、利用者様が落ち着かれない時に、スタッフの人数やその時の状況で、見守りができない時には、一時的に施錠することはある。	身体拘束に対し、学び話し合う機会がある。利用者の状況により、センサーマットを設置する際にも、職員会議で設置することへの弊害を話し合い、そのうえで利用している。	一時的にでも鍵をかけることに際し悩み、やむを得ず実施している。今後も、鍵をかけないですむケアの実践に取り組んでほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務に流されないように、利用者様への言葉かけや接し方など、細心の注意を払いながら行っている。また、機会をみつけて、高齢者虐待防止についての研修を受講して、勉強会をするようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修の受講や、その時に得た情報など、スタッフ会議等を利用して報告したり、資料として配布したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をさせていただき、時間を設け、その時に心配なことや、わからないことをなどを、お聞きして、できるだけ不明瞭な点がないように、十分な説明を行うように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議の時や、年1回の家族会等で意見・要望等を出していただけるように配慮している。	利用者ごとに家族と職員の間で情報交換するノートがあり、利用者がその人らしい生活ができるよう活用している。年に1回家族会を開催し、家族の意見を引き出したり、訪問時に話し合い要望を引き出す努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のスタッフ会議や個人面接等を利用し、意見や提案を聞いて、生かせるようにしている。また、必要に応じ、意見を聞く時間を設けている。	毎月スタッフ会議を開き、職員同士で話し合う機会があり、この会議で出された意見や要望は、すぐに改善に向け取り組む体制をとっている。行事・防災・環境・調理等の担当職員がおり、担当職員を中心に業務改善に向け取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤時には、職員の表情や、態度などに目を向け、声をかけるようにしている。各スタッフへのアンケート調査、個別面談等を通じ、やる気を育てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に、外部の研修会を受講できるようにしている。また、施設内での勉強会の企画も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議や研修会に参加することで、同業者との交流する機会を作り、その時に得た情報等をもとに、サービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の状況等をお聞きし、受け持ちの介護スタッフを中心に、行動や言動、不安げな表情等に注意を払い、出来ることは、継続していただいで、安心して暮らしていただけるように、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一番、何を不安に思われているか、希望されることは何かを傾聴し、できるだけそれに沿うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の希望や、現状等をじっくり聞かせていただいで、何が一番必要なのか、一緒に考えさせていただいで、対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食品等、重たい荷物を持っている職員に、「重たいやろ」と、利用者様から声をかけてくださったり、一緒に運んでくださるなど、その時の気持ちをくみ取り、お互いに思いやることができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	うれしいできごとなどは、個人ノートに記入をして、ご家族来所時に見ていただいたり、できるだけ近況を報告するように心がけている。また、行事等の案内も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の面会等は、できるだけゆっくり過ごしていただいけるように配慮している。	以前利用していた美容室やお店など家族の支援も得ながら、一人ひとりの馴染みの関係を大切にしている。馴染みの場所や行きたい場所への要望は、出来るだけ引き出し対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のいらだちや不安な表情等に気を配り、タイミングを見計らって、さりげなく、お話を聞くようにしている。また、その場が和むようにしてくださる利用者様もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の状況等の情報があれば、それに応じて対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ちの介護スタッフと協力して、ご家族やご本人の要望を聞きながら、本人本位の、意向の把握ができるように努めている。	利用者の言葉やしぐさで思いを汲み取れるよう意識した観察をしている。知り得た情報は、職員全員で共有するようにしている。誕生会など、様々な機会を通して、利用者が何を望んでいるのか情報を取り、担当者や行事係が中心になり取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にお尋ねしたり、また、センター方式を活用し、入所時に、ご家族にシート記入(私の家族、生活史、今までの暮らし方など)の協力をしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各業務時間ごとの申し送り、日々の介護記録や、受け持ちスタッフからの情報等も取り入れながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心にして、ケア会議を開き、ケアの内容の検討や、担当者会議や来所時に生活状況等を報告する時に、ご家族からの希望等をお聞きしたりしている。	以前は、スタッフ会議で、ケア検討会を実施していたが、十分な時間が取れず、今年度よりスタッフ会議とは別にケア会議を毎月開催している。しかし、すべての利用者に対し、毎月の計画・実践の評価は十分できていない。	モニタリングを行い、利用者の状態に応じた必要なケアを提供しているか、毎月の検討を行なってほしい。また、担当外の利用者の介護計画について何時変更になってもすぐ把握できる体制を検討してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画の変更や、内服薬の変更や追加など状況の変化など、必ず周知してほしいことは、記録用紙にラインを引いたり、枠で囲むなど工夫して、共有が図れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	県外在住のご家族で、ご本人がどうしても「家に帰りたい」と落ち着かれない時など、自宅まで職員と一緒に、外出するなどその時の状況で、対応できる限り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方を介して、この地区で歌の指導をされている方を紹介していただき、このホームに来所して、この施設にあった歌詞を作っていただき、いまでは、利用者様全員で合唱できるまでになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は、ご家族に同行していただき、生活環境等が、少しでも把握していただけるように、受診時に体温表や状況等を手紙に書いて、主治医に届けてもらうようにしている。	利用者ごとに希望するかかりつけ医がおり、往診体制も出来ている。急変時、特にかかりつけ医との連携が十分取れるよう、体制作りに取り組むことが、スタッフ会議で検討されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員用の申し送りノートの活用や、毎日の申し送り用紙で、全職員が把握できるようにしている。緊急時でも、常時、医師や看護職と連絡が取れる環境が保たれることで、安心して利用者様に接することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中は、病棟担当者の方や、ケースワーカー等退院調整の方や、ご家族も含めて連絡をとらせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やご家族の来所時などの機会に、ご希望や考えられていることを伺うようにしている。また、この施設で、できること、できないことなども話をしていくようにしている。	重度化や終末期に向けたケアを提供するため、技術指導や勉強会を実施している。重度化や終末期ケアを可能な限り支援していく方向で職員は認識している。終末期ケアに対し家族と話し合う機会があり、利用者の状態に応じ話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法の研修会やその伝達講習を行うことで、心臓マッサージ、AED使用方法など、技術の習得ができるように、心がけている。また痰の吸引方法など勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、日勤帯、夜間帯を想定しての避難訓練を行い、安全に搬出できる方法などを検討している。また、地域の消防団へ連絡しているが、合同練習は、まだしていない。	事業所から見える場所に消防署があり、合同で防災訓練を年に2回実施し、実施後は全職員で話し合う機会を持っている。災害対策を強化するため、地区の消防団にも働きかけている。	事業所近隣住民の方や地区消防団の協力を得て、防災訓練が実施できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの訴えを受け止め、訴えを否定せずに対応するように心がけている。	利用者の尊厳を大切に言葉かけや、気遣いのあるケアがさりげなくできるよう、職員会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見を尊重し、買い物や外食希望など出来るだけ取り入れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の体調、希望に沿って、1日の過ごし方を決定している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時など、着たい服を選んでいただいている。また、外出・誕生会など行事の際に、スタッフが、お化粧品やマニキュアなどを塗って、気分を変えていただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の箸配りや、下膳などの手伝いをいただいている。また、好きなもの、食べたい物をお聞きして、メニューに組み込んだり、外食に出かけるなどしている。	調理士の献立が基本になっているが、利用者の希望などで、バイキング食にしたり、外食や弁当を作り外での食事を取り、楽しむ機会を作っている。利用者と職員は、買い物や調理、後片付けと楽しみながら一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、1日1400kcalに設定し、季節の野菜など、多く取り入れ、大きさや量、器など調節している。水分量の少ない方には、好みの飲み物や、カップを小さめにしたりなど、工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや誘導をしたり、個々に応じて、電動ブラシや舌ブラシを使用している。磨き残しのある利用様には、スタッフが付き添い、声かけや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握できるように、チェック表を使用し、間隔を見て、声かけや誘導を行っている。	利用者ごとに排泄時間が分かるようなチェック表が作られ、排泄の間隔を把握し支援している。排泄パターンが崩れ、間隔が分からなくなった利用者には、細かな時間帯で把握し、失敗が少なくなるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食べ物の摂取や、水分量の調整、腹部マッサージなどを行っている。また、利用者様が、楽しく体を動かすことのできる運動や個々に合わせた運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一週間ごとに、入浴日の予定を立てているが、個々の体調などを考え、実施・中止を決めている。積極的に話しかけることにより、楽しく入浴できる雰囲気作りを心がけている。	日曜を除く曜日は、入浴可能にしており、利用者の希望に添いながら支援している。入浴準備からあがるまでに、時間を要してもせかさず気持ちよく入浴できるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に、ベッドやこたつ、ソファで休むなど、自由に過ごしていただいている。疲れが見られたり、眠そうにされている時は、声かけをしたり、誘導なども行っている。冷暖房の調整にも、気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法は、職員一人一人が、日々理解するように努めている。誤薬、飲み忘れがないように、日付、名前を声に出して確認し、落薬がないように、飲み終わりまで、しっかり見届けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調にあわせて、食後のテーブル拭きや自分の洗濯物たたみなどをしていただいている。また、レクリエーションに、ミニドライブや散歩、外食、季節に応じた、壁紙作りなどを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿った外出は、出来るだけ、かなえられるようにしているが、まだ不十分である。遠出の墓参りや外出の希望がある場合は、ご家族にお願いして、協力をいただいている。	気候の良い季節は、ほぼ毎日散歩を楽しんでいる。毎週水曜日は、利用者ごとの担当者や行事担当の職員が、利用者の要望を取り入れながら、外出の支援をしている。食材の買い物の時にも、利用者と同行し、買い物を楽しむ機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さは、職員一人一人が、理解しているが、預かり金については、事務所の金庫にて、しっかり管理しており、本人の希望に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が、電話を希望される際には、施設の電話を利用してかけていただいたり、取り次いだりしている。ご家族からのお手紙に対しては、返事を書く、お手伝いなど行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まず、清潔を保つことを心がけ、居室・フロアの掃除を中心に、換気の徹底を行っている。季節ごとに、フロアの壁飾りや行事の写真等を掲示したり、食卓に花を飾り、ゆったり食事ができるように、音楽を流したりしている。	フロアには腰かけやすい畳間があり、炬燵やソファがあり、利用者が思い思いの場所で居心地良く過ごせるよう工夫している。廊下からは、中庭で作られている畑が見え、季節感を味わうことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルで、過ごされる時間が多いが、テレビを見たい方、居室で過ごしたい方は、自由にその場に移動され、自分の時間を持たれている。ソファにて、テレビを見ながら、談笑する様子が、見受けられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や大正琴や三味線など、以前使われていた馴染みの物を持ってきていただき、手で触れる、弾くなどしていただいている。また、定期的に布団干しやシーツの洗濯等行っている。	利用者の写真や、家族が持ち込んだ写真が貼られ居心地よく過ごせる取組みをしている。利用者が居室にいないときも、空気の入替えのため、換気がされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の様子を見ながら、予測して、なるべく自分の力を発揮できるように、それに合わせた誘導・見守りを行っている。安全面を配慮して、車椅子等が、障害物にならないように置き場所等検討している。		